

## 第1章 PRODUCT(製品)に関する法則群

### ○贋物駆除の法則

・ルイ・ヴィトンの歴史は、模倣品との闘いの歴史でもある。同社にとって最大の市場である日本でも巧妙化する模倣品、つまり贋物との闘いが続いている。ブランド品の偽物を製造・販売するのは『商標法』違反、「不正競争防止法」違反等になる。転売目的で所持するのも同じである。贋物を本物と偽って販売した場合は詐欺罪も追加される。産地偽装は「JAS 法」違反となる。ブランド品の偽物の輸入に関しても『関税定率法』で麻薬、覚せい剤、拳銃などとともに輸入禁制品に列せられている。ブランド品の偽物を業として輸入した場合は逮捕され、旅行のお土産や個人使用目的でも税関で没収される。

・「ブランドにただ乗りする模倣品は絶対に許せない」という姿勢に基づく贋物駆除はルイ・ヴィトン創業以来の方針である。なぜかといえばルイ・ヴィトンのブランドに対する顧客の信頼の礎となっているからである。

・ルイ・ヴィトンのブランドの象徴となっている L と V の組み文字に花と星を組み合わせた「モノグラム」のデザインも、模倣品が多かったのが背景にあったと言われている。贋物を駆除するためにルイ・ヴィトンが取っている対策には、相手別に分けて3種類ある。一般消費者向けには「啓蒙活動」を行い、企業向けには「警告書送付」を行い、贋物製造販売業者としては「真似できないような独自性の高いラインを作って商標登録や意匠登録をする」という対策を行っている。さらに、「ユニオン・デ・ファブリカンを通じての活動」も行っている。

#### (啓蒙活動)

・LVJ グループは、以前のルイ・ヴィトンジャパン社時代から、知的財産に関するセミナーやシンポジウムをたびたび催してきた。「うちの製品の贋物は買わないでください」とストレートにいわないで、知的財産の啓蒙活動としているのはルイ・ヴィトン一流の上品なテクニックであると見るべきであろう。

#### (警告書送付)

・企業向けの警告書送付では、2000年4月12日付で、インターネット関連大手企業の楽天に警告書が送られたことが有名である。運営側の管理が行き届いておらず、オークションやフリーマーケットで、あからさまな贋物などが売られていたことを指摘した警告文である。今日もどこかの企業がこげ茶色の地に L と V の文字や会社のロゴと花や星を組み合わせた「モノグラムもどき」を無断で (LVJ が許可するわけがない) 使っているとして、警告書を受け取って蒼ざめているに違いない。放置してコラボレーション企画のように勝手に思われてはたまらない。

#### (商標登録・意匠登録)

・ルイ・ヴィトンの旅行鞆のデザイン、特にその図案は、贋物を駆除するために進化してきたと言っても過言ではない。シンプルなグレーの生地が始まり、商標登録を行いつつ、複雑で独特のパターンの『モノグラム・キャンバス (L と V と星と花を組み合わせたもの)』に進化してきた歴史は、世界各国の貨幣が偽造防止のために進化してきた歴史に相似するところがあり、「ルイ・ヴィトンはある種の貨幣である」というルイ・ヴィトン貨幣論も囁かれている。

#### (ユニオン・デ・ファブリカンを通じての活動)

・ユニオン・デ・ファブリカンは商標保護の活動を行うフランス公益社団法人である。かつて、ドイツでフランスの菓子の偽造品が出回ったことを受けて、その業界の有志数社によって設立されたそうだが、1877年から公益社団法人となっている。現在、約900社が加盟しているがそのうちフランスの有名ブランドは約70社といわれている。2001年、在日フランス大使館は、ブランド品の贋物の密売グループを摘発した大阪府警に「国際的な知的所有権の保護に貢献した」とする感謝状を贈った。この感謝状贈呈には、ユニオン・デ・ファブリカンの力添えがあったらしい。